

# 検証用発電所が稼働

## 太陽光積雪地普及へ



北陸に適した太陽光発電のデータを蓄積するために設置した太陽電池パネル＝石川県白山市で

自然エネルギーによる発電施設の開発などを手掛けるグリーン電源（石川県野々市市）は、今月、検証用の太陽光発電所「グリーン電源みかわ太陽光発電所」を同県白山市で稼働させた。北陸など積雪地に適した太陽光発電のデータを蓄積し、中小企業や個人への普及を図る。

国内メーカー二社、中国とカナダのメーカーの計四社の太陽電池パネル約二千枚（出力計四百瓩）を導入した。発電電力量は年間四十万瓩時の見込み。同社によると、この規模でこうした施設を持つのは国内の積雪地域ではあまりないという。

東日本大震災を機に

## 白山でグリーン電源 中小企業、個人向け

太陽光発電は関心を集め、資金力があり官庁や電力会社との交渉が自社でできる大企業は大規模発電所を展開・計画。こうした中、グリーン電源は「土地や資金はあるがノウハウを持たない中小や個人に提案する」（宇野泰光社長）考え。まずは北陸三県から始め、将来は全国での受注も視野に入れる。

発電所の稼働を通じて、北陸の気候などに適したパネルの選定や最適な設置方法などを幅広く評価する。二日から稼働し、五日時点でメーカーによって既に発電電力量に差が出ているという。

二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を年間百二十ト削減する効果があるとみている。宇野社長は「小型の発電を提案し、北陸にもっと太陽光発電を広めたい」と話している。

（坂本正範）

中日新聞社から記事利用の承諾を得ています。 承諾番号20130408-12536

掲載日 2013年4月6日